

# せいとかいたんとう いしくろ つうしん 生徒会担当 石黒からの通信

令和8年10月29日

★「全員でつくる全校集会」——なぜ、みんなが集まるのか？

「全校集会って、正直足が痛いし、長いし、放送じやダメなの？」

そう思ったことがある人、きっと少なくはないはずです。寒い冬や蒸し暑い体育館に集まって、静かに話を聞くのは、誰にとっても楽なことではありません。

でも、先生は「全校集会所、中学校生活で一番『社会人』に近い時間」だと思っています。なぜ教室を飛び出して、わざわざ全校で集まるのか。先生は理由は大きく3つあると思っています。

○「教室モード」から「オフイヤル(公式)モード」への切り替え

教室は、気心の知れた友達と笑い合える安心な場所です。でも、これからの高校生活や社会に出たとき、世の中には「場の空気を読んで、ピシッと切り替えなければいけない場所」がたくさんあります。数百人がいる体育館に入った瞬間、スツと私語をやめて静寂を作れるかどうか。これは誰かにやられる「我慢」ではなく、自分をコントロールできる大人への第一歩です。

○先輩の背中、後輩の視線を感じる

普段は別の階で過ごしている1・2・3年生が、ひとつの場所に並びます。

後輩は「さすが先輩、話を聞く姿勢が違うな」と背中を見つめ、先輩は「見本になろう」と背筋を伸ばす。言葉を交わさなくても、お互いの立ち振る舞いから刺激を受け合えるのは、全校集会だけの特別な空気です。

○誰かの頑張りに、みんなが「拍手」を送るため

表彰される仲間が壇上に立つとき。名前を呼ばれて返事をする姿を、全校生徒の温かい拍手で包み込む時間があります。

プリントの文字で見る「〇〇部入賞」と、目の前で胸を張る仲間に生で拍手を送るのとでは、伝わる温度が全く違います。「仲間を讃える心」を持つこと、そして「自分も次の一歩を踏み出そう」と思えることは、とても価値のある時間です。

集会は、先生たちや話をする人だけがつくるものではありません。

体育館にいる全員の「聴く姿勢」が集まって、初めてその場の空気が完成します。

昨日の校長先生の話や小山先生の話を忘れずに、次の全校集会、みんながどんな空気をくり出せるかだと思います。

期待して!!

